

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価 計画

達成度(評価)	
A:	十分達成できている
B:	おおむね達成できている
C:	やや不十分である
D:	不十分である

学校名	佐賀市立昭栄中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<p>・学習指導の充実・・・探究活動を取り入れた「総合的な学習の時間」のカリキュラム研究・開発に全職員で組織的に取り組むことができた。今後、総合的な学習の時間を中心とした探究活動を推進し、よりよく課題を解決し、自分の生き方を考える資質・能力を育てていく。</p> <p>・生徒指導の充実・・・組織的な取り組みで、諸問題の未然防止、早期発見、早期解決に努めると同時に、開発的生徒指導(生徒の出番・役割・承認)の視点に立った教育活動を展開してきた。今後はさらに主体性を発揮できる機会を多く設け、積極的な挑戦と失敗を乗り越える経験から、たくましく自身を成長させることができる生徒の育成を目指す。</p> <p>・特別支援教育の充実・・・生徒の特性を理解し、交流学級で仲間として活動できるよう支援を行う。</p> <p>・教育相談の充実・・・関係職員・関係機関との連携を密にして、きめ細かな相談・支援体制の充実を図ることができた。今後、WEBQUの結果分析・活用をさらに推進し、生徒の学習や生活に関わる諸問題の早期発見、早期解決に努めていく。</p>
---------------	---

2 学校教育目標	夢に向かって たくましく 挑戦する生徒の育成 ～ 自律・協働 ～
----------	----------------------------------

3 本年度の重点目標	<p>生徒が主体的に学ぶ力を育成する教育の推進</p> <p>○学習指導の充実・・・各教科・領域における探究的な学びを推進する。</p> <p>○生徒指導の充実・・・「出番・役割・承認」の機会を多く設け、自己指導能力の育成する。</p> <p>○特別支援教育の充実・・・生徒一人一人のニーズや保護者の願いを把握し、校内支援委員会で具体的な支援を検討し、特別支援教育の視点から適切に対応していく。</p> <p>○教育相談の充実・・・WEBQUを活用し、いじめや不登校などの未然防止・早期対応に努める。</p> <p>○人権・同和教育の充実・・・学校生活における課題に自分事として考える機会をつくり、差別を許さない態度と実践的な行動力を育成する。</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評)	進捗状況と見通し	達成度(評)	実施結果			評価
●学力の向上	○協働的な学びや探究的な学習活動を柱に、「問い続け、学び続け、挑戦し続ける生徒」の育成を図る。	○「将来の夢や目標に向け、総合的な学習の時間が役に立った」と回答した生徒を80%以上。	・生徒が主体的に課題を設定し、情報収集、分析、まとめ・表現を行う探究的な活動を設計し、実践する。							研究主任
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした生徒を90%以上。	・年間指導計画の見直しや学年職員チームによる教材研究を通して、道徳教育の充実を図る。 ・いじめ・いのちを考える日や人権集会において、生徒主体の活動を実施する。							道徳教育担当
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「生活アンケート」を月1回実施する。 ○6月と10月に教育相談を実施する。 ○学校アンケートで、いじめに関する項目で「差別やいじめが無いよう心がけている」と回答した生徒を95%以上。	・いじめに関する実態調査を毎月行う。 ・きめ細かな実態把握に努め、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を図る。 ・情報交換を密に行い、共通理解を回り、協働体制をつくる。 ・教職員への「いじめ防止対策基本方針」の周知を図る。また、SC・学習支援員・SSWとの連携を深める。							生徒指導主事
	○教育相談の充実	○不登校や相談室登校の生徒数を年度当初から10%減少。	・アンケート等を活用し、定期的に教育相談を実施して生徒理解に努める。 ・サポート相談員、別室対応支援員、学習支援員、養護教諭、SC、SSW、関係機関等の活用により、生徒や家庭への支援を充実させる。							教育相談主任
●健康・体づくり	●◎生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した生徒80%以上。 ●「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした生徒85%以上。	・開発的生徒指導(生徒の出番・役割・承認)の視点に立った教育活動を展開する。							主幹教諭
	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の生徒70%以上。	・部活動で、体力や技能の向上を図り、心身共に健康な生徒を育成する。 ・体力テストの結果を個人で分析する時間を設定し、具体的な改善・目標を立てさせ実践させる。							体育科部活動担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○保健だよりを毎月発行し、食に関する情報発信を5回以上行う。 ○望ましい食習慣について、生徒会と協力し、集会等で情報を発信する。 ○朝食の喫食率を85%以上。	・養護教諭と給食担当で協力して、食の自己管理能力の育成に関する情報発信を行う。 ・生徒保健委員会と協力して、全校生徒に発表を行う。 ・生徒会担当と養護教諭と連携して取組の徹底を図る。							養護教諭食育担当
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上。	・教職員一人ひとりが担当する業務について、その目的に照らし、効率化・費用対効果の視点から見直しを行う。 ・業務記録表を使って、業務改善をすすめ、月当たり80時間以上の超過を0%にする。前年度比10%減、学校閉庁日の設定。 ・部活動休養日の取得率を100%にする。							教頭
●特別支援教育の充実	○セルフケア・ラインケア意識の向上	○毎週水曜日の定時退勤、18時施設完了。	・全職員が声をかけ合い、状況把握できるように、見える化した定時退勤簿を設置し、週単位で、見直しをもって勤務計画を立てることができるようにする。中間評価までに、定時退勤簿達成率を75%以上にする。							教頭
	○特別支援教育の充実	○特別支援教育の視点を取り入れた環境整備に取り組み、アンケートで授業が受けやすい環境であると回答した生徒を85%以上。	・教科教育充実のために、特別支援学級を全校の時間割に組み込む。 ・各種研修を通して、特別支援教育に関する教職員のスキルアップを図る。 ・連絡会や職員研修、特別支援だよりを通して、全職員の共通理解を図る。							特別支援教育コーディネーター

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--